

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	論理国語	特進理系	2	平山
教科書	『論理国語』(数研出版)				
副教材	『論理国語 準拠ワーク』(数研出版), 『2027共通テスト対策問題集Vol.4国語現代文』(河合出版) 『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500 三訂版』(いいずな書店), 『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いいずな書店)				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>語彙力・文章構成の理解(文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方の理解)</p> <p>情報の扱い方を理解する。(情報の重要度による整理、推論)</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>文章を的確に理解し、自分の考えを深め、他者に伝えられる表現力を養う。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>授業を聞く。与えられた課題、自分で発見した課題に取り組む。他者と協働して問題解決を図ろうとする。成果物を提出する。</p>				
考査・評価方法	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施</p> <p>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p> <p>各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する</p> <p>1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20</p>				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・自力で文章を正しく読解する力を養っていくことを主眼とする。 ・教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や知識を深めていく。 ・漢字は考査と同じ範囲を中テストとして実施する。継続的に学習する。 ・隔週で『評論速読トレーニング2000』を実施する。 				
家庭学習	学習内容と進め方	漢字や現代文単語を繰り返し覚える。演習問題を解いた後の復習を適宜行うこと。			
	学習の目安時間・分量	単語は隙間時間を使って覚えること。文章問題の復習については時間がかかっても必ず全問行うこと。			
	学習状況の確認方法	定期考査前後で確認する。詳細は授業内で指示する。			
	成績評価との関係	観点③の評価に加える			
図書資料の活用等・探究へのつながり	各自新書を読む機会を設けるようにすること。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	1「文化が違う」とは何を意味するのか?	論理的文章の理解
	5	問題演習	げんたんp8~p117 TOP2500全範囲
		中間考査	
	6	2「である」ことと「する」こと	論理的文章の理解
2	7	問題演習	げんたんp118~p210 TOP2500全範囲
		期末考査	
	9	3 人はなぜ働かなくてはならないのか	
3	10	問題演習	TOP2500全範囲 げんたん全範囲
		中間考査	
	11	4 顔の所有	論理的文章の理解
	12	問題演習	TOP2500全範囲 げんたん全範囲
	期末考査		
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	公民科	政治経済	特進理系	2	芳野
教科書	実教出版『詳述 政治経済』				
副教材	実教出版『詳述 政治経済 演習ノート』 山川出版社『大学入学共通テストへの道 公共, 政治・経済 2026-2027年用』 担当者作成のテキスト				
評価基準	観点① 知識・技能 ○現実社会の諸事情をふまえて、国内・国際経済に関する概念や理論などの理解を深めている ○国内・国際経済に関する諸資料から、課題解決のために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る能力を身に付けている				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ○市場や財政、金融といった経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現している ○相互依存関係が深まる国際経済の特質と、国際経済において果たすことが求められる日本の役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 学習に対する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしている				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① ○経済の基本概念を正確に把握・理解し、それを記述できる ○課題解決の糸口となる資料を正確に収集・分析できる				
	観点② ○経済活動と福祉の向上との関連について思考し、状況に応じた適切な判断ができる ○国際経済において日本が果たすべき役割を考察し、状況に応じた適切な判断ができる				
	観点③ ○レポート作成を通じて自己の学習状況を振り返り、学習に対する自己調整ができる ○他者との交流から、課題解決への意欲・課題解決に向けた見通しをもつことができる				
授業のねらい・進め方・注意点	授業のねらい：国内・国際経済のしくみを理解し、諸課題の解決に主体的に取り組むための基礎的な能力を身に付ける				
	授業の進め方：基本的に担当者作成のテキストを使用し、ペアワークを多用します 注意点：進度がはやく、分量も多いので、高い集中力をもって授業にのぞんでください				
家庭学習	学習内容と進め方	予習よりも復習に力を入れてください。 授業で扱ったテキストの内容はその日のうちに見直すよと思います。 また、知識定着のために問題集を活用しましょう。			
	学習の目安時間・分量	通常時はその日に扱った授業内容を。考查前は問題集を活用しながら自分の納得するまで。社会科は、勉強にかけた時間だけ成績が上がります。ただし、得意不得意の個人差があるので、自分に合った勉強のスタイルを確立してみてください。			
	学習状況の確認方法	原則毎授業の冒頭で、前回の授業の確認を行います。			
	成績評価との関係	上記の通り、社会科は勉強にかけた時間だけ成績が上がります。 家庭学習が考查の結果につながると思ってください。			
図書資料の活用等	○『朝日中高生新聞』をはじめ、複数新聞社の記事 ○映画『トゥルーマン・ショー』ほか、授業内で適宜映画や書籍を紹介します				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 副教材	第1部 現代日本における政治・経済の諸課題 第2編 現代日本の経済 第1章 経済社会の変容 1 経済活動の意義 第2章 現代経済のしくみ 1 市場機構 2 現代の企業 3 国民所得と経済成長 ~~~~~中間審査~~~~~
	5		
	6		第2章 現代経済のしくみ 4 金融のしくみ 5 財政のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上 1 経済の停滞と再生 ~~~~~期末審査~~~~~
2	7		
	9	教科書 副教材	第3章 現代経済と福祉の向上 5 労使関係と労働条件の改善 6 社会保障の役割 第2部 グローバル化する国際社会の諸課題 第2章 現代の国際経済 1 商品・資本の流れと国際収支 ~~~~~中間審査~~~~~
	10		
	11		第2章 現代の国際経済 2 国際経済体制の変化 3 グローバル化と世界金融 4 地域経済統合と新興国の台頭 6 経済協力と人間開発の課題 ~~~~~期末審査~~~~~
	12		
※大学入試の受験科目で公共・政治経済を使用する(/予定の)生徒は、担当者に声をかけてください。			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学III	特進理系	5	花澤
教科書	数研出版数学III				
副教材	サクシード数学III、各自の大学受験用の参考書				
評価基準	観点① 知識・技能 微分の計算技術をマスターし、具体的な関数に適用できる。微分の逆計算により、積分計算を実行できる。微分による増減表作成、積分による簡単な面積・体積計算が確実にできる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 微分は「少しずらして差を取る」、積分は「細かく切って足す」ことが本質にあることを理解する。微分と積分の基本的操作が入り乱れた問題を、自身で解答のプロセスを組み立てて解決することができる。数IIIの入試問題を徹底的に考え抜き、解けるようになる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 基本的概念を理解するために自分で具体例を考える。わからない問題のどこがわからないのか徹底的に考える。一度扱った問題は二度と間違わないという強い意志をもって復習にのぞむ。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	定期考査ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書の例・例題・練習、サクシード重要例題・Aレベルの問題 50点				
	観点② 教科書の応用例題・発展・補充問題、サクシードBレベル・発展レベルの問題 50点				
	観点③ 授業への取り組み、課題(自宅学習)への取り組み 10点				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期は微分積分の根本を学習します。理解を深めるために適宜教科書には書かれていないような概念の説明も行うため、ノートを見て概念を復習すること。 ・原理を一度理解すれば、後は計算力がカギとなる分野です。微分の計算と積分の計算はセットで毎日行うことを推奨します。単なる計算に脳のリソースを割かない。 ・2学期は数III分野の入試基礎・標準レベルの問題を扱います。GMARCH～(早慶)上理・地方国公立大の問題がメインとなるでしょう。完全な理解のため、必ず予習と復習を欠かさないこと。 				
家庭学習	学習内容と進め方	ノートを見て、概念の理解をする。数学特有の言葉遣い=定義と、数学特有の考え方=論理の2つを、具体例を通して自分のものにする。その後例題演習に移る。式だけでなく、式同士をつなげる考え方まで確認する。その後、問題集や参考書で類題演習等に移る。			
	学習の目安時間・分量	【1学期】授業の復習は30分で、2時間割くとして、残りの1時間を類題演習(サクシード)、30分を大学入試用の問題演習(IAIIIC含む)に充てる。 【2学期】授業の予習に30分、復習(類題演習含む)に1時間。余裕があれば30分～1時間かけて自身に必要な学習。			
	学習状況の確認方法	スタディプラスに学習の記録を挙げること。(ほぼ)毎日チェックします。課題は各試験までの期間にまとめて出すので、こまめに提出しても良いし、試験前にまとめて出しても良い。質問はスタディプラス上でも課題上でも口頭でもどのタイミングでもOK			
成績評価との関係	家庭学習がそのまま試験結果に直結する。数IIIの定期試験で90点をコンスタントに記録できれば、GMARCHレベルの入試問題を難なく解くことができる。				
図書資料の活用等・探究へのつながり	類推の山 ルネ・ドーマル 論理哲学論考 ウィトゲンシュタイン				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書・サクシード	微分
	5	中間考査までにサクシードの重要例題42～65,68～79が課題	<ul style="list-style-type: none"> ・極限に習熟。 ・基本的計算を徹底的にやる。 ・増減表やグラフが描ける。 ・方程式の実数解問題はサービス問題
	6		積分
7	期末考査までにサクシードの重要例題84～126が課題	<ul style="list-style-type: none"> ・区分求積法の理解。 ・計算は微分の逆。 ・線を集めれば面積になる。 ・面を集めれば体積になる。 ・微分方程式? 	
2	9	数学IIIスタンダード演習	入試問題演習(数III中心)
	10	この時期に課題は課さないが、必ず問題の予習をしてくること	<ul style="list-style-type: none"> ・複素数平面。とにかく回転付きのベクトル。 ・2次曲線は定義が全て。 ・極限の本質は近似である。 ・微分積分。教科書知識でどれくらい解けるのか体験する。 ・その他色々
	11		
	12		
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学C	特進理系	3	黒滝
教科書	数研出版数学C、数研出版数学B				
副教材	サクシード数学C、4STEP数学B、各自の大学受験用の参考書				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 数学における基本的な概念や性質（二次曲線、確率分布、統計的な推測など）を、その成り立ちや原理と共に体系的に理解している。また、左記のように得られた知識を、問題の状況に応じて正確かつ適切に活用することができる。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 基礎的な原理を根拠として、公式や性質を自ら論理的に導き出す（再構成する）力。既習の数学的プロセスを抽象化して捉え、初見の事象や未知の問題に対して、どの原理を適用すべきかを判断し、解決に向けて論理を構築・表現する力。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 数学的原理や論理の流れを深く理解しようと、多角的に検証しようとする姿勢。解決の糸口が見えない問題に対しても、既習の知識を総動員して仮説を立て、粘り強く試行錯誤（アプローチ）を繰り返しながら、自身の学習過程を振り返り改善しようとする態度。</p>				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	定期考查ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。				
テスト・評価の内訳	<p>観点① 教科書例題レベル、サクシード、4STEPのA問題レベルの基本的な問題を50点分出題。</p>				
	<p>観点② 教科書応用例題レベル、サクシード、4STEPのB問題、重要問題レベルを50点分出題。</p>				
	<p>観点③ 小テストや日々の課題の提出状況で評価する。</p>				
授業のねらい・進め方・注意点	2年次の数学選択で扱った複素数平面に引き続き、式と曲線を扱う。その後は、数学Bの確率統計を扱う。「どうせ入試には出ないだろう」と思っていたら、昨年度は慶應理工、東京理科大、立教などで出題された。もう無視することはできない。ここまでを1学期で終わらせる予定である。その後は、数学IAIIBC(ベクトル)の入試問題演習、共通テストの対策などを行う。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業で扱った関連問題を提示するので、サクシードなどを用いてその日の授業で扱った内容を復習してほしい。			
	学習の目安時間・分量	1回の授業につき復習の時間が60分程度かかるとして、週3時間～4時間程度。単元に応じて変化するものであり、自分ができるようになるために必要な学習時間を確保すること。2学期になったら予習もしてほしい(詳細は授業で言います)。			
	学習状況の確認方法	小テストの結果や課題の取り組みによって確認する。			
	成績評価との関係	観点③の成績の一部として評価する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	「数学ガール」シリーズは数学に関する様々な事柄についてまとまっている書籍なので、読んでみるとよい。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	数研出版 数学C サクシード 数学C ノート	第4章 式と曲線（数学C） 第2章 統計的な推測（数学B）
	5	補充プリント	
	6		
2	7		IAIIBC入試問題演習 (含む共通テスト対策)
	9	プリント ノート	
	10		
	11		
3	12		

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	物理	特進理系	4	有田
教科書	物理基礎（物基703）実教出版 物理（物理702）実教出版				
副教材	セミナー物理基礎＋物理（新課程版） 第一学習社				
評価基準	観点① 知識・技能 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解できる。 公式を使って、基本的な問題を解き、物理量を求めることができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 実験等によって得られた情報を整理・分析し、法則性や関係する物理量を求めることができる。また、得られた知識を使って応用的な課題を解決できる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業や課題に真剣に取り組む、知識や思考力等の成長のために努力できる。 また、学習した内容と日常生活との関わりなどについて調べたり考えることができる。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 用語の意味を問うような、単純な知識問題が大部分となる。				
	観点② 応用問題や初見問題を中心とした問題に対応力を問う。				
	観点③ 授業姿勢や小テスト、課題の取り組みなどで判断。				
授業のねらい・進め方・注意点	物理を選択した人は、基本的には大学受験科目として物理を選択するであろうということを前提として、大学進学に向けて必要な最低限度の知識と技法を身につけることを目標として授業を行います。適宜、状況に応じて進度を変更する可能性があります。				
家庭学習	学習内容と進め方	教科書の内容を中心に、共通テストや私大・国公立2次試験対応できる力をつける授業を行う。授業→演習・課題→復習のサイクルを確立してもらう。			
	学習の目安時間・分量	毎日1時間以上の学習が望ましい。			
	学習状況の確認方法	課題の提出状況や定期考査などで確認。			
	成績評価との関係	観点③の成績の一部として評価する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	物理基礎4章1節 電流	静電気と電流 オームの法則、電気とエネルギー
		物理3章1節 電荷と電場	電場中の導体 コンデンサー
	5	物理3章2節 電流	電気回路と直流回路
		物理1章3節	等速円運動
	6	円運動と単振動	慣性力と単振動
		物理1章4節万有引力	ケプラーの法則と万有引力
	7	物理1章5節	気体分子の運動と状態方程式
気体分子の運動		気体の内部エネルギーと状態変化	
2	9	物理3章3節 磁場と電流	磁場、電流の作る磁場 電流が磁場から受ける力
		物理3章4節 電磁誘導と電磁波	ローレンツ力 電磁誘導の法則
		物理基礎4章2節 電気の利用	自己誘導と相互誘導、電気振動と共振 交流 電磁波
	10	物理4章1節 電子と光	電子 光の粒子性と電子の波動性
		物理4章2節 原子と原子核	原子の構造 原子核と原子核反応 素粒子
	11	セミナー物理基礎＋物理	入試過去問題の研究
		12	入試過去問題
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	化学発展	特進理系	4	石田
教科書	実教出版 化学academia				
副教材	セミナー化学基礎+化学				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 語句 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解する。 技能 実験の際に、適切に器具を使用し、実験のねらいを果たす。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 問い 単元ごとの代表的な問いについて学ぶことで、科学的な見地を手に入れる。 意見 状況に応じた理論の活用を行い、自分自身の意見を形づくる。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 意欲 自分で必要だと思ったことを実施し、語句の修得のための努力を重ねる。 関心 修得した理論の歴史や社会的意義を、調べたり考察したりする。</p>				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 語句の意味等の知識、数値計算を正しく行えるか				
	観点② 種々の自然事象がおきる原理の理解とその活用				
	観点③ 小テスト、課題、自然事象に対する関心				
授業のねらい・進め方・注意点	<p>【ねらい】 未知の自然事象を「粒子の集団のふるまい」として理解しようとする学問が化学であり、その感覚を体得することが授業のねらいである。</p> <p>【授業の進め方・注意点】 独自のプリントに沿って授業を展開する。理科の学習においては、暗記ではなく理解が最も重要であるということに注意してもらいたい。</p>				
家庭学習	学習内容と進め方	論理的な文章を読むこと。理科(自然科学)とは、自然事象を、人間が使う数式や言葉に翻訳する学問であって、そのためにはまず文章の読み書きの能力、すなわち国語力が必須である。そこで、日頃から積極的に活字に触れてもらいたい。			
	学習の目安時間・分量	学習時間は問わないが、授業を受けた日は同日中に内容を復習すること。学んだ内容を、他者に説明して理解させることができるのが望ましい。			
	学習状況の確認方法	小テストもしくは演習課題			
	成績評価との関係	観点③の評価に加える。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	自然科学の研究に関心のある者は、以下の書籍を読むと良い。 戸田山和久「科学的思考」のレッスン 学校で教えてくれないサイエンス				

授業の計画

※授業の進度により変更することがあります。

学期	月	教材	内容
1	4	プリント	飽和炭化水素
	5	プリント	不飽和炭化水素 有機化合物の構造決定
	6	プリント	アルコール、エーテル、アルデヒド カルボン酸、油脂、芳香族化合物
	7	プリント	高分子化合物
2	9,10	プリント	無機化学
	11	入試の過去問	全単元の復習と、入試問題演習

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	生物	選抜理系	4	岡田
教科書	「生物」第一学習社				
副教材	「スクエア最新図説生物」第一学習社				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書および図説の内容の十分な理解を目指す。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 内容の理解を目指す過程で、教科書以外の資料を多く取り入れる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 学習内容に関する課題図書のサマリーを作成する。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 用語の意味を問うような、単純な知識問題が大部分となる。				
	観点② 文脈を正しく読み解く必要があるような、考察を要する問題が大部分となる。				
	観点③ サマリーの内容を元に判断する。				
授業のねらい・進め方・注意点	学習者...学習項目の理解にどれほど自分自身の思考を巡らせたか?に注目する。 授業者...学習者の思考がより深いものになるように注力する。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業内容を再現する。 家庭学習用のプリントを解答する。			
	学習の目安時間・分量	各自で判断する。			
	学習状況の確認方法	不定期。 授業者の求めに応じ、都度、提出の準備をしておく。			
	成績評価との関係	家庭学習を評価に入れることはしないが、適切に実行していないと、定期考查に響くことを自覚する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	特になし				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 図説	①4月～5月中旬は「第3章細胞と分子」「第4章代謝」について学習する。5月下旬～6月は「第5章遺伝情報とその発現」「第6章遺伝子の発現調節と発生」について学習する。 ②授業者は、教科書や図説を用いて、ハイスピードで学習項目を確認したのち、問題演習を行う。 ③学習者は、主に家庭学習にて、個々の学習目標に応じて内容の深い理解に注力する。
	5		
	6		
	7		
2	9	教科書 図説	を扱う技術とその応用」「第8章動物の反応と行動」について学習する。10月下旬～11月は「第9章植物の成長と環境応答」「第10章生態系のしくみと人間の関り」について学習する。 ②授業者は、教科書や図説を用いて、ハイスピードで学習項目を確認したのち、問題演習を行う。 ③学習者は、主に家庭学習にて、個々の学習目標に応じて内容の深い理解に注力する。
	10		
	11		
	12		
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	保健体育	体育	特進理系	2	保健体育科
教科書					
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能				
	観点② 思考力・判断力・表現力				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度				
考查	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点=100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	観点① 体育館種目、グラウンド種目、ダンスのそれぞれで観点の評価をつける ※1学期は新体力テストが加わる				
	観点② 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、ダンスのそれぞれで観点の評価をつける				
	観点③ 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、ダンスのそれぞれで観点の評価をつける				
授業のねらい・進め方・注意点	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業内で実施した内容をもとに、実技動画を調べたうえで各自視聴し、次回授業に生かすようにすること。			
	学習の目安時間・分量	それぞれの技能に応じる。			
	学習状況の確認方法	実技テストでの評価			
	成績評価との関係	観点別評価の内訳に準じる			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1			○オリエンテーション (新学期・実技指導・内容説明)
	4		○新体力テスト 【グラウンド種目】ラグビーフットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	5		【体育館種目】バレーボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	6		【ダンス】 ・内容説明、基礎動作・振り付け指導 ※実技テストも行う。
2	7		
	9		【グラウンド種目】サッカー ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	10		【体育館種目】バスケットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	11		【ダンス】 ・創作ダンス、振り付け指導 ※実技テストも行う。
12			
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	外国語	ECIII	特進文理	4	久保田 祐正
教科書	FLEX ENGLISH COMMUNICATION III (増進堂)				
副教材	英語長文読解 プラクシス(Praxis) Level 4 (Z会)				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>*テキストの英文・設問に対応できるだけの語彙力、英文解釈力が身につく</p> <p>*設問の解法を、本文設問を通じてマスターする</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>*テキストに基づく別形式出題にも対応できる</p> <p>*初見英文でも、同じ読み方、解き方で対応できる</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>*授業内外の課題に、手を抜くことなく取り組んでいる。</p> <p>(この項目は正解点数ではなく、取組状況のみで評価する)</p>				
考査・評価	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
方法	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<p>Stage 1では「読解のアプローチ」に関する講義を行ったうえで、サポートノートでPre-Useして予備知識、導入を図ります。それから本文問題に取り組みます。解答解説については、先に冊子を渡しますので、各自で確認、解き直しをすることが基本です。授業では冊子で触れていない知識や考え方を伝えることがメインになります。</p> <p>Stage 2では先に本文問題に取り組み、解答解説に入る前に、サポートノートをAfter-Useして知識を補強した後に、もう一度本文問題をやり直します。その先はStage 1と同じです。</p> <p>Stage 3は仕上げになりますので、本文問題から解答解説、最後に知識整理としてサポートノートを使います。</p> <p>なお、12月までにすべてを授業でこなすのは不可能なので、1・2年次とは異なり、相当量の授業外課題を出すことにはなります。</p>				
図書資料の活用・探究へのつながり	特になし				

授業の計画

学期	月	教材	内容	
1	4	Stage 1 - 1	サポートノート知識を得た上でよいので、しっかり本文を読み、問題を解き、正答率を上げることで「大学中上位レベルの入試英文が解ける」成功体験を身につける	
		Stage 1 - 2		
		Stage 1 - 3		
	5	Stage 1 - 4		
		Stage 1 - 5		
		Stage 1 - 6		
		Stage 2 - 1		各英文を①素で読む ②サポートノート知識を得てやり直すの2段階を踏むことによって、自分が長文を読むうえで何ができている、欠けているを把握し、後者を補強する意識を持って学習する
Stage 2 - 2				
Stage 2 - 3				
7	Stage 2 - 4			
2	9	Stage 2 - 5	常に本番を意識して取り組む。この段階でスムーズに読めるようにするために、Stage 1と2があるということは、4月当初から常に覚悟しておくこと	
		Stage 2 - 6		
		Stage 3 - 1		
	10	Stage 3 - 2		
		Stage 3 - 3		
		Stage 3 - 4		
11	Stage 3 - 5			
	Stage 3 - 6			
12	(終了後 大学入試演習等)			
	3	1 2	大学入学共通テスト	国公立志望者はここでアドバンテージを、私大志望者はここで滑り止めを確保
私大一般選抜 国公立二次試験			志望校突破あるのみ よい報告を待っています。	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	論理表現III	特別進学	4	石井
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression III				
副教材	PLUS 英語頻出問題 入試必携英作文 Write to the Point、共通テスト10分リスニングプレノート				
評価基準	観点① 知識・技能 文法知識を習得し、客観式問題に解答することができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 習得した文法知識を応用して初見の問題に対応できる。また、正しい英文を作ることができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 小テスト、課題、ペアワーク等の活動に積極的に取り組んでいる。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 文法・語法に関する4択問題(テキストベース)中心				
	観点② 正誤・整除作文及び和文英訳(テキストベース)、初見問題				
	観点③ 小テスト、課題、他諸活動への取り組み				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・大学受験に向けた、英文法分野の実践的演習。解答の根拠となるポイントを自分で考えながら問題を解く力を養うことを目的とする。 ・培った文法知識を運用して正しい英文を書くことを目的とする。 ・原則予習は課さず、授業内で問題演習し、解答解説を行う。 				
家庭学習	学習内容と進め方	授業で扱った問題を解き直ししながら、解答の根拠やキーとなる文法事項や表現の定着を図る。また課題や小テストに取り組む。			
	学習の目安時間・分量	30分程度(復習のみの場合) その日の授業分。課題や小テストが課されているときは、すべて完了するまで行う			
	学習状況の確認方法	テキストの問題が根拠をもって答えることができるかどうか。また、該当事項を含む初見問題(BrightStageを推奨)に対応できるかどうか。			
	成績評価との関係	課題・小テストに関しては観点③に加味する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 1 ~ 2 1主語の決定(1) ~ 2主語の決定(2) 第1回、第2回、第3回、第10回
		5 PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 3 ~ 4 3目的の表現 ~ 6時制(2) 第11回、第12回、第4回、第5回
	6	PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 5 ~ 6 7動詞の語法 ~ 8関係代名詞・関係副詞 第6回、第13回、第14回、第15回
		9 PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 7 ~ 8 9時間の表現 ~ 10数字の表現 第7回、第8回、第9回、第16回
		10 PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 9 ~ 10 11仮定・条件の基本 ~ 13比較の基本 第17回、第18回、第19回、第20回
		11 PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 11 ~ 12 14比較の応用 ~ 17.重要表現(2) 第21回、第22回、第23回、第24回
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	英語演習Ⅰ	特進	2	太田
教科書	なし				
副教材	Clues to Reading 英文和訳の徹底演習 (数研出版)				
評価基準	観点① 知識・技能 各Clueの学習事項を習得し、実践問題ができています。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 各Clueの学習事項を、別の英文に対しても応用できています。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 毎回の英文和訳作業に、能動的に取り組んでいる。 予習教材にきちんと取り組んでいる。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① テキストで扱った問題を扱う。				
	観点② テキストで扱った問題の中でも応用的なもの、もしくは類題を出題する。				
	観点③ 授業の予習への取り組み、授業内の小テスト。				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・予習必須。予習前提で授業を進める。 ・例題は先に授業で解説→演習問題は予習という流れで進める。 				
家庭学習	学習内容と進め方	予習をしてくる。授業で解説を行う。それを踏まえて、音読をしながら復習を行う。その際に、授業で扱った内容を復習する。			
	学習の目安時間・分量	予習に30分～1時間程度、復習に30分程度。			
	学習状況の確認方法	自分で問題を黙読し、構造や訳語まで含めて、正確に英文が理解できる。			
成績評価との関係	観点①で授業で扱った問題はそのまま出題されるので、直結する。 解説で扱った知識が②③で問われるので、関係する。				
図書資料の活用等・探究へのつながり	辞書の活用が可能。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		Clues to Reading 英文和訳の徹底演習	1 基本構造を見ぬく(1) 2 基本構造を見ぬく(2) 3 注意すべきthatの用法を見わける 4 注意すべきitの用法を見わける 5 関係代名詞は代名詞(1) 6 関係代名詞は代名詞(2) 7 意味上の主語を見ぬく 8 文末の分詞構文を見ぬく
2			9 比較対象を見ぬく(1) 10 比較対象を見ぬく(2) 11 名詞構文を見ぬく 12 倒置を見ぬく(1) 13 倒置を見ぬく(2) 14 省略を見ぬく 15 その他重要事項
3			

3年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	<p>3年次では、以下を重視して実施。 2年次からの個人探究を引き続き行い、深め論文にし、発表する。 進路探究を通じて自分を理解する。</p> <p>一学期 志望理由書の作成、個人探究の継続 二学期① 論文にしたものを踏まえスライドにする 二学期② 全員発表する</p>
教材 教具	<ul style="list-style-type: none"> □ iPad (Classroomの連絡が確認できる端末) □ マイナビテキスト「探究の進め方」 □ その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。
一学期	<p>志望理由書を作成し、進路探究をする。個人探究を継続する</p> <p>授業の流れ (概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 志望先学校について深く知る 2. 志望理由書の書き方を学ぶ 3. 志望理由書を書き、添削を受ける 4. 2年3月の発表をさらに発展させるよう個人探究を継続する 5. 論文の書き方を学ぶ 6. 論文を作成する
夏休み	スライドの作成
二学期	<p>前半 スライドを作成し、周囲からアドバイスを受ける 後半 スライドを用いて発表する</p> <p>授業の流れ (概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 夏休みの計画したようにスライドを作成する 2. スライドをも用いて発表する 3. 発表について評価を受け、改善する 4. 他学年に代表者が発表する

注意	
基本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間発表での反省を生かし、個人探究のテーマ・内容を深める ・ 探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。 ・ 大学進学後に必要となる論文作成やプレゼンを経験する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルーブリックを意識した行動を心がける。 ・ 調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識した成果物を作成する。

グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？	
<p>個人での探究の機会が増えるが、発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。 ② 協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③ 話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って+αのアイデアを出す。 ④ グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。 ⑤ 会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を補う。 ⑥ 予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行する。 ⑦ 予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。 	
注意事項	評価指標
<p>個々の発言量・機会を均等にする。 人の意見に乗ってばかり...はやめる。 人に指示してやらせてばかり...はやめる。 会話の流れを記録し、遡れるようにする。</p>	<p>協働的に学ぶ意義は「物事を多面的に視る」という点である。様々な側面からの情報や異論などを集め、整理できれば、よいチームだと評価される。</p>